

市民リテラシーのための ライティング育成環境

鈴木宏昭

青山学院大学文学部
ヒューマンイノベーション研究センター

背景

大学入学者の変化
学力の低下
目標の欠落
学習方法の誤解

経済産業省
「社会人基礎力」

文部科学省
「学士力」

初年次教育の必要性

PISA大学版
・専門
・批判的思考
・対人能力

リメディアル(補習)
スタディスキル
キャリア教育
動機づけ

2

多様性

- ・ 進化
- ・ 発見、創造
- ・ 民主主義

3

多様性を欠落しつつある社会

- 対抗勢力の不在
- グローバリズム
- 格差社会
- 社会の心理学化
- 新国家主義

4

メディアの利用

- 権力によるメディアの「活用」
 - ー規制緩和
 - ー改革を止めるな
 - ー戦後レジーム
- 個人によるメディア利用のあり方
 - ーネット利用における匿名
 - ーフィルタリング
 - ー炎上

5

民主主義と大学教育

- 多様な意見や主張を尊重し、そこから合理的な意志決定、発言のできる学生を育てる。
 - ー 批判的思考: 合理的、理性的な思考の方法を体得した個人の育成(楠見)
 - ー 議論学: 民主主義の理念とテクニック(富田)

6

なぜレポートか

- 根拠があり、合理的で、人を説得できる文章を責任を持って書くには、
 - 問題の発見、洗練
 - 論証、文章化
 - 資料の検索、批判的利用
- が必要。加えて、
- 他者との対話が大前提となる

7

学生のレポートの現状I

- 道順レポート:「駅から大学までのもっともよい道」
 - 「私これすき」型
 - 「私はこれが大好きです。なぜなら・・・」
 - 基準断言型
 - 「これこれの基準で評価する」
 - 基準評価型
 - 「これこれの基準が重要である。なぜなら・・・」
 - 状況設定型:
 - 「誰にとって、いつ一番よいのか」

8

学生のレポートの現状II

	1年生	2年生
起承転結	2.02	2.23
体験、感想	0.71	1.08
結論の出るテーマ	0.84	0.87
謝罪	-0.34	-0.07
話し言葉	1.68	1.77

-3:絶対にはならない 0:どちらでもよい 3:必ずそうすべき ⁹

レポート教育の課題

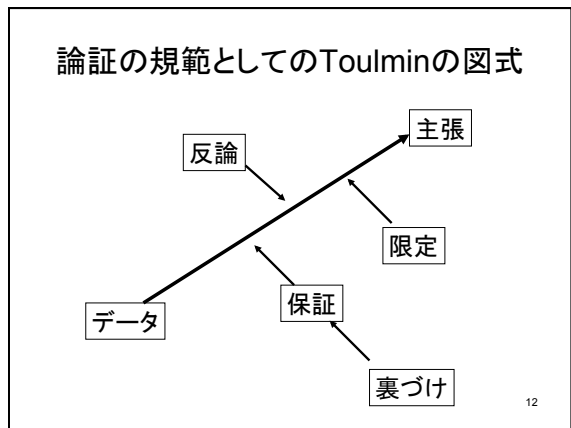
- 問題発見・洗練
 - 問うに値する問題
 - 結論の出る問題
 - 専門知識との関係
- 論証
 - 結論の妥当性を高める論証の形式
 - 一般性のある論証形式
 - 分野に依存しない論証形式

10

レポートの教育、研究の難しさ

- 教育
 - 論証についての具体的なイメージが学生にない
 - 問題発見や洗練のテクニックは領域知識と深く関連する
- 研究
 - 基準がはっきりしない
 - 問題+主張+根拠(だけでよいのか?)
 - テーマが広いと様々なトピックに展開し、客観的な評価が難しい。

11



問題点

- 告げることにはできる
- しかし学習可能か？
 - なじみがない
 - 領域知識が欠けている
 - 抽象度が高すぎる
 - 確証バイアス

13

解決策としての協調学習環境

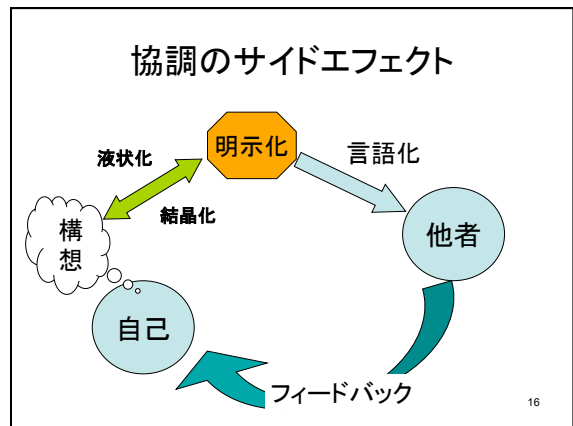
- 問題発見
 - 仲間に問いをぶつけてもらう
 - 仲間に敵になってもらう
- 論証
 - 仲間にデータ、保証、裏づけへのつっこみをしてもらう
 - 仲間に反論してもらう

14

協調のside effects

- 人に伝えようと構想する
 - 自分の理解を振り返る(反省、モニタリング)
 - 他者の理解を考える(予測、反論の反論)
- 表現する
 - モヤモヤを明確な形にする(結晶化)
 - 明確なものをモヤモヤにする(液状化)
- 他者の反応を得る
 - 自らの理解、表現を反省する

15



協調学習環境

- 自己、
- 過去の自己
- 他者(教員、同僚)
- テクノロジー
- 資料、文献

} 適切な形で複合させ

↓

理解のプロセス・プロダクトを共有

→ 授業

17

道のりレポート

- 課題: 淵野辺駅からキャンパスまでの最もよい道のりについてのレポートを作成せよ

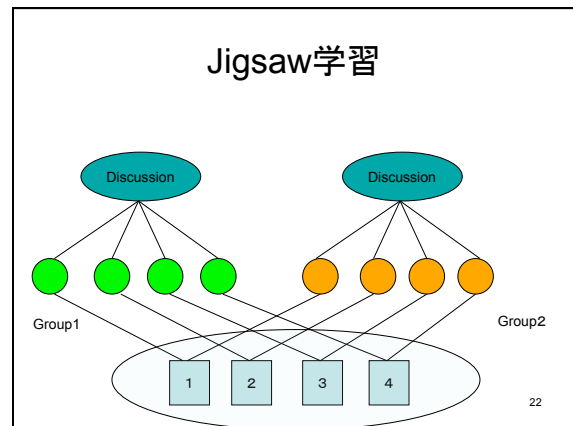
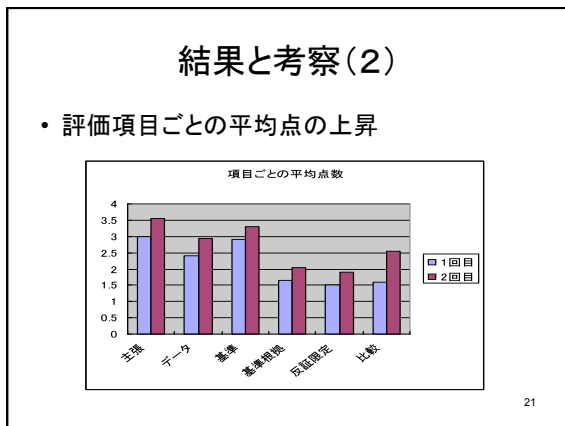
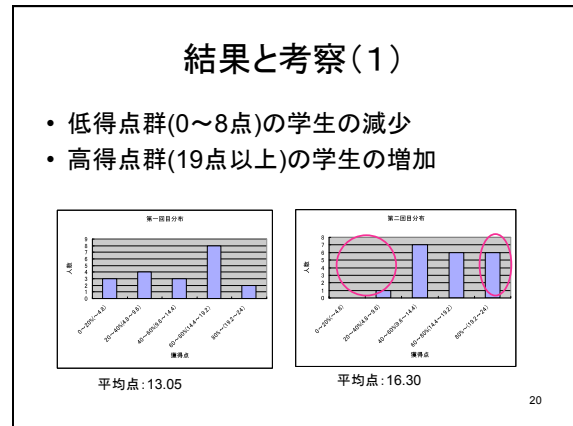
不良定義問題なので、

- 良さの基準を自ら作る(保証)
- 良さの基準を論証する(裏づけ)
- データを収集する(データ)
- 反論、限定を行う(状況作り)、が必要。

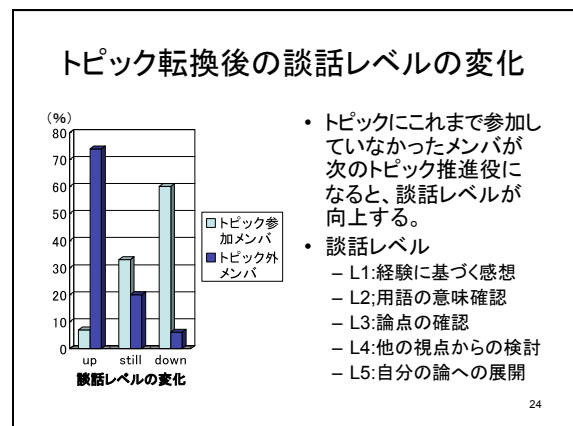
18

Peer Review実践

回数	日にち	授業内容	課題
第2回	4/19		・駅から大学までの1番良い道について書く。
第3回	4/26	・道のリポート相互レビュー 書いてきたレポートをグループ単位で交換し、コメントを付けて返却。 ・コメント方法: A5の紙に1人1枚記入。計5~6枚を記入。	・どこを直すべきか、修正プラン(A5一枚)を作成し、5/2までに提出。 ・次回授業までにレポートを修正し、授業中にクラスメンバーからもらったコメントシートをセットにして提出。
第4回	5/10	・修正したレポートおよびコメントをセットにして提出。	



- ### 多人数インタラクション
- ・ トピック推進役 (Doer)
 - 話題を提供する人
 - ・ トピック参加メンバ (Monitor)
 - トピック推進役に質問したり、同意したりする
 - ・ トピック外メンバ (Metamonitor)
 - そのトピックに関する討論に参加していない



表現と交流のツールとしてのBlog

- 個人情報(日記のような)が書きやすい
- 簡単に作れる
- 反応をしやすい
- 反応を把握しやすい
- 自らのアイデア貯蔵庫として保存できる



25

Blogでの活動

1週間に100回以上ものアクセス



26

まとめ

- レポートライティングを通して、多様性の重要性に気づかせ、民主主義を体得させる。
- 多様性確保のための教授ストラテジ=協調
 - Peer Review
 - Jigsaw
 - SNS (Blog等)

27

今後の課題

- 問題発見を促進させる
 - 批判的思考に加えて、
 - Emotionalな活動を導入する
 - 公開・共有
- グループ間格差への対応
 - ディスカッション活動の組織化
- ほんとに民主的な精神が育つのか。

28

謝辞

- 青山学院大学総合研究所、ヒューマンイノベーション研究センターからの助成を受けている。
- 研究メンバー
 - 小田光宏(文学部、ヒューマンイノベーション研究センター)
 - 杉谷祐美子(文学部、ヒューマンイノベーション研究センター)
 - 長田尚子(文学研究科)
 - 白石藍子(文学研究科)
 - 館野泰一(東京大学学際情報学府)
 - 鈴木聡(ヒューマンイノベーション研究センター)

29